

議会だより こさか



ヒメマス放流体験 6月16日 十和田湖和井内 ～ 小坂小学校3年生20人が遡上に願いをこめて ～

- | | |
|-----------------------------|-----|
| 1. 5月臨時会・6月定例会の概要 | 2～3 |
| 2. 一般質問
こんなことを聞きました（5議員） | 4～9 |
| 3. みんなの広場 | 10 |



小坂町かぶさん

6月定例会 一般質問 町政を問う

5人の議員が12項目について質問



1 9番 小笠原 憲昭 議員

1. 4期目の町政運営について
2. 新型コロナウイルス対策について
3. 町広報について

2 8番 鹿兒島 巖 議員

1. 町民の慶弔情報について
2. 北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産登録の見通しとなったこととかかわって
3. 新型コロナウイルス感染症対策にかかわって



3 5番 菅原 明雅 議員

1. 「SDGs」について
2. 十和田湖和井内エリアに開設される「道の駅」に秋田犬を置いていただくことについて（再提案）

4 6番 秋元 英俊 議員

1. 新型コロナウイルスワクチン接種について
2. 危険なバス停について
3. 消防団員確保について

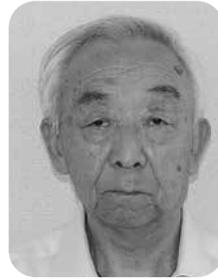


5 3番 本田 佳子 議員

1. 不妊治療の対応について

4期目の町政運営は

町長 「ひとと自然と文化を未来につなぐ魅力あふれるまち」に



小笠原憲昭 議員

一般質問 町政を問う

問 4月4日執行の町長選挙で四度目の当選、誠におめでとございます。町政運営での重点事項、財政運営、補助事業等はどう進めるのか。
答 三つの重点プロジェクトに積極的に取り組みます。第一に「安心・安全な暮らし」地域づくりプロジェクトとして、防災体制の充実を最優先に取り組みます。第二に「地元産業間の連携 地域活性化プロジェクト」として、十和田湖和井内地区の「道の駅」を整備し令和5年度のグ

ランドオープンに向けて進めます。第三に「次世代の人づくり 移住定住促進プロジェクト」として民間活力を活用した賃貸集合住宅の借り上げや、賃貸住宅建設に対する一部補助などにより、就労者の町内定着を促すとともに、移住者向けには住宅取得に対する補助を用意し、住宅需要に対応していきます。財政運営の根幹となる町税収入は、人口減少・少子高齢化の影響を考慮すると、減少に転じていくことが予想されます。歳入の多くを占める普通交付税や臨時財政対策債などは減少していくことが見込まれることから新規地方債発行額を抑えていくことが必要であり、予算規模を縮小していかなければならないと考えています。
問 経常的経費を節減して、投資的分野にどのよう回していくのか。
答 経常収支比率は高い数値で推移しており、経常的経費

の削減も難しくなっています。令和5年度で起債償還のピークとなり、以降は減少していきます。

新型コロナワクチン対策は

問 小坂町診療所の荒川先生のご理解ご協力のもと、ワクチン接種が順調に進んでいるものと思うが、現状と今後の進め方はどうなっているか。
答 4月26日から高齢者を対象に第1弾の接種を開始、6月16日まで在宅、施設入所者の方918人の高齢者が2回の接種を終えました。キャンセルが生じた場合には、歯科診療所、調剤薬



接種会場の小坂町診療所

局、接種事業に従事する福祉課職員、高齢者施設の従事者である小坂ふくし会職員、合わせて186人も接種を終え、1104人となりました。

第2弾の高齢者接種には、1065人の予約で6月11日から開始し7月26日までに2回の接種を終える予定です。これにより第1弾900人と合わせて1965人、接種率87・49%となる見込みです。また約100人分のワクチンに余裕があるため障害者支援施設3施設の職員も接種予定です。

今後の進め方ですが、第3弾から64歳以下の方々を対象に開始します。第2弾同様に1170人分確保できる見込みで、60歳から64歳の方と16歳から59歳で基礎疾患等を持ち接種を希望される方を対象に、7月29日から開始し、8月28日に2回の接種が終了する予定です。第4弾として、接種されていない16歳以上の町民を対象に、8月中旬までに開始し、順調にワクチンが供給されれば10月上旬には希望者全ての接種を終了できるよう計画しています。

対象年齢が拡大された12歳から15歳までの児童については、関係機関からも意見を伺いながら接種時期を判断したいと考えています。

町広報について

問 出生・結婚・死亡の掲載をなぜ取りやめたのか。
答 それぞれの届出書を受付窓口へ持参された際に、親族や関係される方に確認の上、希望される場合に限り慶弔欄へ掲載してきました。しかし、個人情報保護条例との関連や個人に関する情報が容易に不特定多数の目に触れられる状況では、昨今の特殊詐欺や商取引に利用される可能性が皆無ではないことも心配されたので、令和3年1月号から掲載を終了いたしました。

問 今後どうされるのか。
答 広報掲載について同意される方については、今後掲載していきたいと考えています。
問 広報を活用して町長の活動を報告してはどうか。
答 コロナ収束後先進地等を訪れる機会があれば、広報紙など活用し、町民に報告できる工夫をします。

「広報こさか」 慶弔欄の復活を

町長 個人情報保護等の確認を徹底して再開したい



鹿兒島 巖 議員

一般質問 町政を問う

町民の慶弔情報を「広報こさか」に「慶弔だより」として掲載してきたが、今年の一月号から掲載を取りやめた。



世界文化遺産の登録を待つ大湯環状列石

分り親しまれ、頼られてきたことを重く受け止め、掲載の再検討を。

啓 掲載を終了して以降、再開を求める声が寄せられるなど、思いのほか反響が大きかったことから、掲載を希望する方の個人情報保護等に係る確認を徹底した上で、確認が取れた方だけを掲載することとして、掲載を再開したい。

北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産登録となるが、文化・観光施策の見直しが必要では

町長 個々の施策で見直し・連携が必要

啓 北海道・北東北の縄文遺跡群が世界文化遺産登録の見通しとなり、鹿角市の大湯環状列石と北秋田市の伊勢堂岱遺跡群が含まれているが、今後の町の観光政策・文化政策に影響が出るのではないかとウイズコロナと併せて政策見直しが必要ではないか。

啓 大変面白いニュースであり、ウイズコロナやアフターコロナに向けての観光誘客に期待が持てるものと思っております。

秋田犬ツーリズムでは大きな政策変更はないものの、今年度の事業として秋田犬ツーリズムと鹿角DMO、秋田内陸線との連携事業を展開していく計画であると伺っています。町としては個々の政策で対応することとします。

小坂まちづくり株式会社を主体となり、今年の秋に「縄文ワイン」をテーマにした地域の環境・観光・産業をワインツーリズムでつなぐ連携事業として、縄文遺跡と地域食

材を組み合わせたモニターツアーを実施します。

文化政策では、文化遺産の構成が環状列石を有する遺跡であり、町にこれらの構成遺産と共通する町指定史跡「小坂環状列石墳墓」があります。郷土館では来年度、町の縄

文文化を紹介する展示を計画し、東北自動車道による遺跡群とのアクセスの良さを生かし、観光政策と協働して、更なる文化政策の推進を図っていきます。

希望する全町民への新型コロナワクチン接種と、PCR検査への支援強化を

町長 第3、4弾を構え、取り組みたい

啓 ①ワクチン接種で在宅介護者、接種会場に行けない高齢者などの接種漏れはないか。②64歳以下への対応の明示を。③医療関係従事者同様に別枠で対応すべき職種（介護関連、保育関連、教育関連職種など）への具体策はどうか。啓 65歳以上で希望される方の優先接種は漏れなく終了予定です。

64歳以下は第3弾として7月29日から、59歳以下は第4弾として8月中旬までに開始して、10月上旬には全ての接種の終了を目指します。意見 ワクチン接種後に感染したとの情報もある。ワクチン



64歳以下への接種は7月29日からの予定

「SDGsによる目標」の達成を

町長 総合計画にも「SDGs」を示し、目標に近づけます



菅原 明雅 議員

一般質問 町政を問う

③町が重視する3項目

- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 13 気候変動に具体的な対策を

問 町長は選挙戦で「SDGsによる目標」を討議資料として配付しておりますが、

①「SDGs」について、簡単に説明願う。
②「SDGsによる目標」を掲げた意図について、伺う。
③「SDGs」には17項目ありますが、町政を司るにあたり、特に重視する3項目をお示し願う。

④「SDGs」を主題に若手職員との意見交換会を開催していただきたく、提案する。

答 ①「SDGs」とは、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」です。「誰ひとり取り残さない」という理念のもと、「世界の貧困をなくす」、「持続可能な世界を実現することを目指す」、2030年を達成期限とする17の目標と169のターゲットと、その進展を評価するための指針を持つ包括的な目標です。

②第6次小坂町総合計画にも

SDGsによる目標を示しました。世界共通の目標で地方自治体が掲げる目標とスケールは異なりますが、目指す方向性は同じであり、計画を推進することでSDGsの目標にも近づいていけるのではないかと考えています。

④若い職員も増えてきており、近いうちにぜひ開催したいと思っております。テーマにこだわらない自由な議論をする中で、SDGsの目標達成にもつながるような意見交換にしたいと思っております。

意見 「SDGsによる目標」を「第6次小坂町総合計画」に掲げた以上、その達成のためにご尽力願いたい。「SDGs」は我々高齢者にも大切ですが、これから50年、60年生きる若い世代にとってはより切実な目標です。従来の発想にとらわれない若手職員の意見も取り入れ、町が活気づくことを願っています。

和井内エリア「道の駅」に秋田犬を(再提案)

町長 イベント時に実現できないか検討したい

問 昨年の9月議会で、「十和田湖再生プロジェクト」12項目を提案させていただきました。その第一として、「和井内エリアに開設される『道の駅』に秋田犬を置き、『秋田犬のいる国立公園十和田湖』として全国世界に発信し、集客に努めていただきたい」と述べましたが、その回答は「常時展示するスペースを確保できない等の理由で、現状では実施する予定はありません」というものでした。

今、日口合作映画「ハチとパルマの物語」上映で、秋田犬がさらにブームになっており、秋田犬は今や世界の人気者です。大館市はもとより秋田県も秋田犬を目玉に観光事業を推進しています。この絶好の機会をぜひ生かしていただきたく、再提案いたします。アフターコロナを見据え、町民に明るい話題を提供する点からも良策と考えますが、いかがでしょうか。

答 現段階でも、常時「道の駅」建物内で展示することは困難と考えていますが、年数回のイベントとして、観光客と触れ合う場を設けることは

可能かと思いませんので、秋田犬の展示にご協力が得られる方と相談しながら検討していきます。



和井内エリアの「道の駅」



話題の秋田犬「高橋梅子」ちゃん

新型コロナウイルススワクチン接種は

町長 第1弾予約時、混乱を招き、大変ご迷惑をお掛けしました



秋元 英俊 議員

一般質問 町政を問う

問 新型コロナウイルススワクチン接種の受付時に、つながりにくいなどの苦情があったが、その後の予約状況は。

答 第2弾では、委託先のコールセンターで、予約専用電話15回線を使用し受付業務を行いました。受付開始時に電話がつかないとの苦情が20件寄せられました。十分なワクチンを確保しており、希望者全員が接種できるため、時間をおいて電話するよう伝えて理解を求めました。その後は、混乱もなくスムーズに予約受付ができたと考えています。

ます。

問 国では高齢者の2回目の接種を7月中に完了させるとしているが、町でもそのような対処ができるのか。

答 6月11日から開始した高齢者第2弾の接種は、7月26日に終了予定ですので、これにより接種を希望された高齢者の全ての方々が、2回目の接種を完了する予定です。

問 64歳以下の接種はどのような計画・スケジュールになっているのか。

答 第3弾は、7月29日から開始し8月28日に終了する予定で、続く第4弾は、第1弾から第3弾まで接種されていない方を対象に、8月中旬までに開始し、10月上旬には接種を終了できるよう計画しています。

問 接種された方々の副反応に対して町では把握しているのか。把握しているのであれば、どのような副反応が見受けられたのか。

答 副反応の個別調査は行っていませんが、1回目の接種より2回目の接種後に重い副反応を発症すると言われており心配していましたが、これまで、小坂町診療所からアナフィラキシーなど重いアレルギー反応の症状が現れた方の報告はありません。接種された高齢者の方から、小坂町診療所へ2件、保健センターへ2件、いずれも発熱等の症状が現れたとの相談があり、解熱鎮痛剤を勧め、2日程度で改善されたと伺っています。

問 町として、今後も接種される方々に副反応について周知を行うていきますか。

答 老人ホームなど施設に入所しているなどで接種場に来場できない方々に対しての対処は行ったのか。

答 特別養護老人ホーム「サンホーム大石平」、「あかしあの郷」障害者支援施設「あすなろ」「更望園」の利用者は、小坂町診療所の荒川所長が施設の嘱託医であるため、巡回接種として施設内で接種を行いました。その他の施設では、「ケアハウスわかば」「有料老人ホームなの花」「小坂わい



小坂町診療所
利用者は、運営する法人で行っています。

危険なバス停について

問 国土交通省が行った「危険なバス停」全国調査結果で小坂町も2カ所指摘されているが、そのことについてどのような対処をするのか。

答 「交通安全上問題と思われるバス停留所」の調査は、全国の各運輸支局が都道府県バス協会と協力し、バス事業者を通じて行われました。

秋田県では、秋田運輸支局が収集・整理したバス停留所のリストを、市町村も構成員となつている「秋田県バス停留所安全確保合同検討会」で情報共有が図られました。

検討会は定期的に開催され、安全対策実行の進捗状況について、フォローアップの実施やリストの共有が行われ



競技場入口バス停

消防団員確保について

問 昨年度質問した、消防団員が減少傾向にあることへのその後の対策の進捗状況について。

答 その後の対策の進捗状況についてですが、消防幹部会が逐次話題としているほか、随時、分団長はじめ団員それぞれが、地域において加入の呼びかけを行い、新入団員の確保に取り込んでいる状況にあります。

人口の減少に伴い町内に定住する若者も減少し、団員の確保が困難な状況となっておりますが、今後も、地域の消防防災力の向上を図るため、新入団員の確保と、消防団協力事業所の認定に向けて、鋭意取り組んでいきます。

不妊治療支援を更に一歩前へ

町長 新たな支援事業を考えたい



本田 佳子 議員

一般質問 町政を問う

している。不妊治療に関して本町の現状、及びその取り組み状況はどのようなか。

答 本年1月から国の助成内容が拡充され、所得制限が撤廃、助成額は最大で1回当たり30万円を6回までに改正されたことから、県でも独自助成分として7回から9回まで、30万円を助成することに改正されました。町でも国、県の改正に合わせて、1回当たり5万円を増額し、20万円を補助しています。また、一般不妊治療と不育症の治療に要する費用への助成は、町単独事業として1年度につき15万円を限度として助成を行っています。利用状況は、令和2年度までで、特定不妊治療、一般不妊治療、不育症、合わせて14組のご夫婦が助成を受けております。治療先の医療機関は、県内7組、県外7組で、このうち9組のご夫婦が出産まで至っています。

問 不妊治療は段階的に治療

5.5組に1組

(不妊治療中、もしくは経験者)



不妊の原因は男性側、女性側とも約50%
不妊=「女性側だけの問題」ではない

法を変更して行われ、それぞれの段階に応じ、一人ひとりの状況などを見定め、医師から指定された日に通院する必要があるが、事前の予定が組みにくく、仕事をしながら治療する方にとっては、仕事との両立が課題となっている。企業向けに不妊治療に関するセミナーや相談サービスで全国展開している「NPO法人フォレシア」佐藤代表理事によると、仕事と治療の両立に悩み、不妊治療をされた方の6人に1人(女性は4人に1人)が離職をしている。その際「不妊治療が理由」と伝えられた割合は54.4%で、企業側は気づきにくいのが実状だ。離職をせずに不妊治療と仕事の両立ができるよう、環境整備に向けた企業・団体への支

援と情報提供を啓発していくことの必要性をどのように考えているか。

答 政府において昨年12月に「不妊治療を受けやすい職場環境に向けた今後の取組方針」が取りまとめられ、不妊治療と仕事の両立に関する内容が盛り込まれ本年4月から適用されています。さらに、日本経済団体連合会、日本商工会議所、全国中小企業団体中央会、全国商工会連合会に対し、「不妊治療と仕事の両立ができる職場環境整備等に向けた取組に関する要請」を行い加盟企業等に周知し、国、県ともに、企業向けと労働者向けにパンフレットを作成、配布して周知を行っています。環境整備に向けた企業等への支援や情報提供は必要なことだと考えていますので、周知、啓発に努めます。

問 不妊の原因は、男性・女性ともに約50%で、治療開始が早い段階で、適切な治療が受けられれば出産率は1.52倍増加するそうです。福岡市では今年度、30歳の希望する女性に対し妊孕(にんよう)性の一つである卵子の数を推定するAMH(抗ミューラー管ホルモン検査)を500円で受けられると発表した。採血という方法で卵巣の状態が分かるこの検査によって将来の結婚、出産を決定していくの

妊孕(にんよう)性の検査にたい指標となると考える。

答 現時点で無料クーポンの考えはありません。来年度から不妊治療の公的保険の適用に向けて、国が検討しています。保険適用の対象は、体外受精や顕微鏡受精のほか、男性の不妊治療なども含めて検討しているようです。治療に必要な検査などの範囲までの治療を保険適用するのか不明なため、詳細が分かり次第、町単独財源を活用し、新たな子育て支援につながる事業を考えていきたい。

国 日本では5.5組に1組が不妊の検査や治療を経験しており、日本産婦人科学会によると、体外受精の実施件数は、年々増加し2018年は約45万5千件と過去最多となっている。誕生する子どもは16人に1人は体外受精で誕生している。秋田県では「幸せはこぶこウノトリ(特定不妊治療費助成)事業」が、国の現行の助成制度よりも手厚く制度設計され、本町においても令和3年度から不妊症・不育症についての助成を拡充



